

農業技術 プリズム

近年配合飼料の価格は高止まりが続いています。中でも養豚経営では飼料費が生産費の6割を占めているため、配合飼料価格の高騰は経営に大きな影響を与えています。豚の品種によって、肥育日数を短縮するために高エネルギーの飼料が給与されることもありますが、肥育豚の背脂肪厚が上規格2・4cmを超えて、中あるいは並に格付けされるケースがあります。

その結果、フスマ混合飼料を肥育後期豚に給与すると、日増体量が低下し飼養日数は長くなることで生産管理費が増加しましたが、背脂肪厚(背)が上規格2・4cm以内

フスマ混合飼料の効果

肥育後期豚に給与して 枝肉単価上がり利益増

に薄くなり上物率が80%以上に向上し、枝肉単価が上がって肥育豚1頭当たりの利益が増加しました。

なお、フスマ混合飼料を用いる場合は、肥育豚1頭当たり(県農林技術開発センター 畜産研究部門 中小家畜・環境研究室 研究員 島崎百伽)

飼養成績および枝肉成績

試料の種類	飼養成績		枝肉成績		
	日増体量(kg)		肥育後期飼養日数(日)	背脂肪厚(cm)	上物率(%)
	去勢	雌			
フスマ混合飼料	1.00	0.88	48.3	2.1	83.7
配合飼料のみ	1.16	1.02	42.8	2.6	40.0